



TAIHEIYO CEMENT NEWS LETTER

2015年5月26日

太平洋セメント株式会社

シンガポールにおいて新開発の混合セメントを販売開始 ～24,000 t サイロを増設～

当社はシンガポールを拠点とするホンリョンアジア社 (Hong Leong Asia Ltd.) との合弁会社である Singapore Cement Manufacturing 社 (以下、SCMC 社) を通じ、シンガポールでセメントの輸入ターミナル事業を営んでおります。SCMC 社は既存セメントターミナルの敷地内に新たなセメントサイロ (容量 24,000t サイロ 1 基) の増設工事を進めてまいりましたが、このたび新サイロが完成し稼動を開始しました。

シンガポールでは、地下鉄や高速道路をはじめとしたインフラ整備が進められるなかでセメント需要は堅調に推移しており、なかでも大型・大断面のコンクリート構造物 (マスコンクリート) の温度ひび割れ対策として、低発熱型セメントへのニーズが増加しております。

当社は、SCMC 社の新サイロ建設と併せて、現地の品質ニーズを満足する混合セメントの開発を進めてまいりました。輸出用に開発したこの新製品は、ポルトランドセメントと石炭火力発電所で発生するフライアッシュ等の混合材を適宜使用して製造し、SS EN 197-1 (シンガポールのセメント品質規格) の CEM II と呼ばれる品種に適合するよう管理した混合セメントです。日本とは大きく異なる現地の使用環境において、低発熱・低収縮性による温度ひび割れ抑制効果をはじめ長期強度の増進、ワーカビリティの改善、アルカリシリカ反応抑制などの効果が適切に得られる設計としました。また、現地のユーザーや有識者の協力を得ながら各種試験を繰り返すなか、この混合セメントは環境に配慮した製品であることから現地でグリーンラベル (※1) を取得することができました。併せて、新サイロ建設にも一部使用してその性能が確認できております。使用するフライアッシュは、日本国内の電力会社の協力のもとで選別・調整・管理したものをを用いる予定であり、将来発生量の増加が予想される新規石炭火力発電所からのフライアッシュの有効利用にも役立つものと期待されています。

今後、SCMC 社では、これまでの普通セメントの輸入販売に加え、新サイロを CEM II 用として活用することで、現地のニーズに対応した新たな製品の供給を通じ、事業の更なる拡大を図ってまいります。

(※1) Singapore Environment Council が運営するエコ認証 (<http://sgls.sec.org.sg/>)

<SCMC 社の概要>

社名	Singapore Cement Manufacturing Co.,(Pte)Ltd (SCMC 社)
代表者	Mr. Kwek Leng Peck (郭 令栢)
本社 ターミナル	本社： Business Office 43/45, Sungei Kadut Street4, Singapore ターミナル： 40 Pulau Damar Laut, Singapore
出資比率	太平洋シンガポール社 (太平洋セメント 100%) 50%、 ホンリョンアジア社 50%
セメントターミナル	【新サイロ】 2万4千トンサイロ×1基(2015年4月竣工) 【既存サイロ】 2万3千トンサイロ×1基 1万7千トンサイロ×1基 1万トンサイロ ×1基

<シンガポールのセメント需要>

(千トン)

2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年 (当社予想)
4,837	4,355	4,793	5,851	5,869	5,973	6,000

出展：Singapore Building and Construction Authority (BCA)

<本件に関するお問い合わせ先>

太平洋セメント株式会社 総務部 IR 広報グループ

TEL 03-5531-7334

FAX 03-5531-7551